

家庭と学校 2つの力で支える子どもの未来

全国的に不登校児童生徒が増加しており、本市も例外ではない状況です。不登校は問題行動ではなく、多様な要因・背景が複雑に絡み合い、結果として登校しづりや不登校の状態になっている場合が多いようです。

不登校を未然に防ぐために、学校や家庭が安心して安全な居場所になるよう一緒に考えてみませんか。



問合せ 学校教育課 ☎32-1438

不登校とは？

文部科学省は、不登校児童生徒を「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いた者」と定義しています。

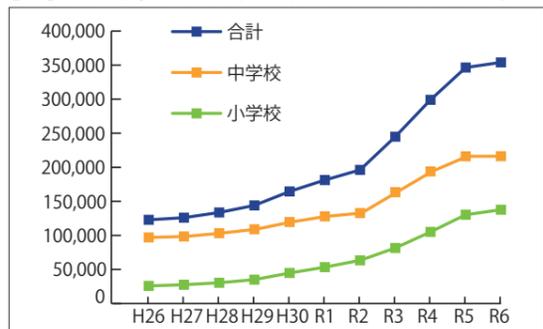


不登校の状況

令和6年度、小・中学校における不登校児童生徒数は約35万4,000人で過去最多となり前年度から約7,000人増加しています。小学校では43人に1人、中学校では15人に1人の割合となります。過去5年間の傾向として、小・中学校ともに不登校児童生徒数は特に増加しています(右図)。

近年では、小学校低学年の増加率が高くなっています。

【図】不登校児童生徒数の推移(文部科学省調査)



不登校児童生徒への取り組み

市内の小・中学校では不登校児童生徒を増やさないために、家庭訪問や座席などの配慮、登校しやすい雰囲気づくり、別室での登校の提案などを行っています。他にも以下のような取り組みを行っています。



■適応支援教室(明日花・明日花東分室)
自分のペースで通いながら少しずつ学習する意欲を高め、学校復帰や進路の実現を目指して、集団生活に慣れるように支援を行っています

■スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー
児童生徒およびその保護者を対象とし、悩みや発達に関する相談、学校・家庭・福祉と連携するための相談ができます

■ホームフレンド
大学生などのスタッフが、不登校や引きこもり状態で悩んでいる児童生徒の話し相手となって自立をサポートしています

■通級指導教室
通常の学級に在籍しながら、週に1~3時間程度、集団生活での困り事や発達の問題など個別の支援を受けることができます

家庭でできること

子どもが不登校になったときは家庭でのケアが大切です。

社会生活能力の育成



家族とのコミュニケーションや、人との関わりをもつことが大切!

メタ認知能力を身に付ける

不登校の子どもたちは、自己理解や状況理解が不十分で、感情や行動をコントロールすることが苦手な場合があります。

メタ認知能力が高まることで、不登校の原因を理解し、対処法を見つけ、学校生活への適応を促すことが期待できます。

メタ認知能力とは？

自分の考えや学びを客観的に見て「これでいいかな?」「もっとよくするには?」と考え直せる力のこと

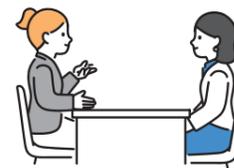


メタ認知能力を身に付ける手助けをしよう

- 感情を言語化するサポート
子どもが感じていることを言葉にする手伝いや、安心して話せる雰囲気を作る
- 小さな自己決定の機会を増やす
服を選ぶ、食事を決める、過ごし方を選ぶなど、日常の小さな選択を尊重し、実行する
- できたことを振り返る時間を持つ
どんなに小さなことでも、できたことや頑張ったことを一緒に振り返る習慣を作る

家庭と学校の連携を深めよう

家庭と学校が連携して子どものメタ認知能力を育てていくことが、非常に重要です。家庭と学校が同じ方向を向いて子どもを支えることで、安心感と自己理解が深まり、不登校からの回復を促進し、将来の自立につなげることができます。



一人で悩まず相談してください

- 子育て相談室「なのはな」
☎34-4159
☎0120-76-4152(子ども専用ダイヤル)
午前8時30分~午後5時(平日)
・発達、問題行動、不登校などの子育て相談
- 一宮児童相談センター
☎0586-45-1558
午前8時45分~午後5時30分(平日)
・子どもの心や体のこと、家庭や学校の問題についての相談

- 教育相談「こころの電話」
☎052-261-9671
午前10時~午後10時(年末年始を除く毎日)
・友人関係・いじめ・不登校など、学校生活や家庭生活についての悩み相談
- 子ども・家庭110番
☎052-953-4152
午前9時~午後5時(平日)
・子どもについての悩み相談

